ハンガリー日本語教師会会報　第３号

MJOT 会報

『第１回スピーチコンテスト実行委員会』に出席して

運営委員 後藤 史与

３月１日午後４時３０分より、国際交流基金ブダペスト事務所において第１回スピーチコンテスト実行委員会（以下スピコン実行委員会）が行われました。（２月１日に第０回スピコン実行委員会があり、教師会からの「オブザーバー参加」の依頼を受けました。それで２月１５日付けで、教師会正会員の皆さんに①オブザーバー立候補者・推薦 ②スピコンに関するご意見 を伺いましたが、①に関しては立候補者も推薦もありませんでしたので、教師会運営委員会を代表して後藤が出席してきました。）以下、話し合いの一部をお知らせいたします。なお、議事録に関してましては、スピコン実行委員より届き次第、基金事務所の教師会ファイルに入れておきますのでご参照ください。

第１０回日本語スピーチコンテスト
１）開催時期　：２００３年２月下旬～３月上旬
２）参加資格　：在ハンガリーの日本語学習者（滞日経験３か月以上の者を除く）
　　①小中学生の部　②高校生の部　③大学・一般の部　の３部制
３）今後の日程：第２回スピコン実行委員会でテーマを決める
　　９月に各教育機関に募集要項を発送する
４）その他　　：第１１回スピコン（２００４年）から教師会が主催団体となるよう検討してほしい

第２回スピコン実行委員会は４月 19 日の金曜日（午後４時半～基金事務所）の予定です。２００４年以降のスピーチコンテストを教師会で主催できるか、２００３年の第１０回スピコンにふさわしいテーマは何か、審査委員、審査基準は従来通りで良いのか、などについての現場の先生のご意見は大変貴重なものです。教師会運営委員会では引き続きスピコンに対するご意見・ご要望・ご質問を募ります。(e-mail:fumi0627@hotmail.com) 会員各位の積極的な声の参加をお待ちしています。また、オブザーバーは１名と決まっておりません。参加できる先生がいらっしゃいましたらご連絡ください。

報告

３月 21 日に教師会会合が国際交流基金 Bp 事務所で開かれました。議題は「高校卒業試験について（p３参照）」「ヨーロッパ日本語教育シンポジウム実行委員会からの報告（p２参照）」「天皇・皇后両陛下ハンガリー御訪問に関して」などで、その後 Hidasi Judit 先生より「欧州共通教材プロジェクト」についての講演がありました。またシンポジウム発表へのアンケート協力のお願いもありました。

欧州日本語教育シンポジウム・ブダペスト大会実行委員会より

3月21日に国際交流基金の会議室で、日本大使館の阿部氏も交えてヨーロッパ日本語教育シンポジウム（ブダペスト大会）の準備に関する中間報告会が開かれました。まず、実行委員のメンバーである貿易大学の佐藤先生とカーロリ大学の後藤先生よりこれまでの進捗状況が発表されました。

1）シンポウジウム案内状は各国教師会、在外公館等に発送済み
2）3月21日現在、参加申込者23名、発表申込者2名
3）3月21日現在、ハンガリー教育省より報告書作成費として86万Ft助成されることが決定。また、3月12日のハンガリー日本商工会の定例会で資料配布などを行う。

そして、今後、①大使館への協力要請　②ハンガリージャーナル、ドナウ通信へのシンポジウム記事掲載依頼を行っていくことを決定しました。

君はどう思う？

ハンガリーで出版されている「チョークからビデオまで」という外国語教授法入門書のQ＆Aを読み、そこで自分が感じたことを「教師としての己の姿を客観的に見る」チャンスにしてみましょう。さあ、あなたはどう思いますか？

Q：学校のシステム上、教科書を教えなければならないんです。
A：教科書はいろいろな切り口で教えることができます。教科書から「それで学習者を教えられる」ものを自分なりに選んでみましょう。

Q：教科書を終えることができません。
A：教科書をぜんぶ終わらせれば、それで学習者の実力が伸びると思いますか。教科書が全部終わらないことより、学習者の力が伸びないことの方が重要です。教科書から、これは重要だと思うものを選び出し、それだけは終わるようにしましょう。（もちろん「教科書を教え」るのではなく「学習者を教える」ことを忘れずに）

„A KRÉTÁTÓL A VIDEÓIG" 19/20ページより。若井

最近読んだ本

「日本語教育は何を目指すか」言語文化活動の理論と実践 細川英雄明石書店 **(6500円)**

…一番重要なことは「私」自身が自らを取り囲む状況をどのように認識するかであり、ここには話者の認識すなわち価値観が色濃く反映される。
…しかし現在の場面論はこうした話者の認識や価値観の問題を意識的に排除し、客観的な観察によって得られるデータからその構造を明らかにしようとする姿勢が読み取れる。
…意識的に価値観の問題を排除することによって、場面の問題を言語形式の問題として客観化し、これを記述しようとしているのである。
…しかし、それは言語習得と言う観点から見ると絶望的な方向性の転換であったと言うことになる。なぜなら、
…場面をどのように扱うかはすべて「私」の認識の中にあるからである。しかも、それは個人1人1人によって異なるわけであるから、全く同一の場面というものは、どのようなコミュニケーションの場にも存在しないことになる。

まだまだ、面白い部分があります。次の機会に紹介します。（若井）

卒業試験を考える会

１．語彙集

現在、今年度の卒業試験に向け語彙集を作成中ですが、3月 21 日現在の進捗状況は以下の通りです。

A）進捗状況

１）カーロリ大学の若井先生より「日本語初歩」と「日本語能力試験３級・４級」の語彙、テレーズバーロシ高校の加藤由香子先生より「みんなの日本語」の語彙の提供がありました。

２）これらのファイルはすべて別の形式で保存されていたため、伊東がファイル形式を統一しマイクロソフト・エクセルで語彙を合わせた上で並べ替えました。

３）また動詞の提示の仕方（「辞書形」か「ます形」か)、あるいは名詞とサ変動詞の提示の仕方などが、それぞれのファイルによってバラバラであったため、これも伊東が現在一定の基準に統一するよう語彙の整理を行っています。

B）今後の課題

１）①語彙表示基準を統一し、②重複する語彙を削除して、③訳が複数ある場合には適当なものを選ぶという作業を終わらせれば、リストができあがりますが、この時点でハンガリー語・日本語の最終確認を行う必要があります。全部で３５００語程度ですから、分担すれば１週間で終わると思いますが、パソコンを使える会員の方のご協力をお願いすることになると思います。

２）卒業試験は５月中旬ごろになるため、遅くとも４月下旬には印刷を終えている必要があります。印刷と製本を手伝ってくれる方のご協力をお願い致します。

３）この語彙リストをベースにして、来年度は更に改良を加えていく必要があると思います。具体的には

・漢字を明記するのかどうか
・品詞や動詞の分類を明記するのかどうか
・例文を入れるのかどうか
・複数の解釈がある語彙の扱いをどうするか。
（例：出る「部屋を出る」「試験に出る」）

２．現在抱える問題

現在のところ残念ながら今回卒業試験を担当する機関がどこになるのかがわからず、またこれまで高校卒業試験を考える会で話し合われてきたことが試験に活かされるのかどうかもわからないという状況です。今後の情報収集が待たれます。また、卒業試験終了後、昨年のような報告会も必要と思われます。

３．さいごに

卒業試験を考える会の進行訳を１年つとめてまいりましたが、５月末で帰国することになりました。まだ語彙集発行という大切な仕事が残っておりますが、これまでの皆様のご協力大変感謝しております。。

（伊東 隆作）

お願い

夏のヨーロッパ日本語教育シンポジウム（ブダペスト大会）に向けて、各発表予定者による、いくつかのアンケート調査が行われる予定です。
皆様、大変お忙しい時期とは思いますが、何卒ご協力の程をよろしくお願い申し上げます。

ハンガリー日本語教師会(通称 MJOT)会報第２号
発行日：２００２年3月２９日　発行者：MJOT（担当：若井誠二)
なお、「MJOT 会報」は国際交流基金ブダペスト事務所の協力により発行されています。

日本語教師に必要なカウンセリング技術

－その２－

小松慶子（こまつよしこ）
元流山市教育委員会カウンセラー

ある高校での出来ごとです。高一の女子生徒が放課後遅く職員室に人かげまばらになることを見はからって居残った担任の先生のところにやってきました。

女：先生、この間やった知能検査の結果わかりましたか。
先：ああ出たよ。君か。ちょっと待てよ。いま見てやるから。ううん１０３だね。君は成績のいいわりには、この方は案外低いねえ。しかしこんなものは…。まあ頑張れよ。

生徒はだまって職員室を出ていきましたが、やがてしばらくして校舎から飛び降り自殺してしまいました。彼女は無口でしたが、先生に言われるまでもなく頑張り屋でした。よくできる姉に負けまいと必死に勉強してきました。けれど私はいくら勉強しても頭が悪いから、もうこれ以上のびないのではないかと、絶えず気になりあせっていたのです。その心が彼女を職員室に向かわせたのでしょう。先生は知能指数を聞きに来たから正直に知らせて励ましてあげたというわけです。しかし全生徒のうちたった一人その結果を気にして、わざわざ職員室まで聞にこずにはいられなかったこの生徒の心の動き全体を大切にあたたかく、しかもがっちり受け止めることができていませんでした。

彼女は知能指数を聞きにきたのではなく、「私はもう本当に駄目なのかしら。なんとかもっとのびたいわ！」と叫んでいたに違いありません。もしそのとき担任の先生が彼女の真の叫びを感じ取り「ああ.. どんなふうに結果が出ているのか、すごく気になっているんだね」とでも受け止めていたら、それを糸口として二人の心の交流は深まっていたのではないでしょうか。

カウンセリングの場面においては「知的な面より、感情的な面を重要視する」ことが大切です。一般に人間の行動は知性によってよりも情意的なものによって左右されがちです。知性は頭です。理論、理屈です。情意は胸や肚（はら）です。気分や気持ちです。日常生活の中でも「リクツは飲み込めても、ハラのムシがおさまらない」とか「わかっちゃいるけど（知性）やめられない（情意）」とかいうことは、だれでも経験しています。にもかかわらず、私たちの人間関係において感情的な面の感受性を鋭くし、これにはたらきかけることの重要性は軽視されがちです。学校でも知的教育に偏り感情教育はなおざりにされていますし、特に人と人との間におこる感情をどう受け止め処理するかについての教育は皆無に等しいのではないでしょうか。

話し手の不適応の原因は、ほとんどが感情的もしくは情緒なものに根ざしています。ですからカウンセラーは話し手の言葉の内容にだけ反応し、知性的な手段によってこれを解決しようと思っても案外話し手を受け入れられず、従って効果も薄いことが多いようです。「おっしゃっていることは、よくわかりますが・・・」という気持ちが、話し手の心の中に動くのです。この「・・・が」はたったひとことですが、「どうも、すっと胸におさまらない感じがする」という感情がにじみ出ています。

この感情を無視して、知的な説明や説得をいくらしても返ってくるのは「わかりますが・・・」の堂々めぐりです。聞き方のポイントは言葉や動作から伝わってくる相手の感情、もしくは気持ちに焦点をあて、それをしっかり受け止めるということなのです。

（続く）